

Book Review



一から学ぶ スケーリング・ルートプレーニング

一歯ずつわかるパーフェクト SRP & メインテナンス

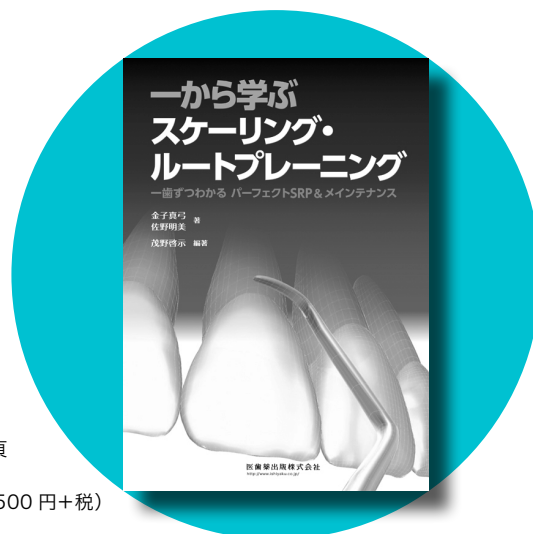
金子真弓・佐野明美 著
茂野啓示 編著



Reviewer

桑田正博 Masahiro Kuwata
(愛歯技工専門学校名誉校長)

A4判, 190頁
オールカラー
定価(本体5,500円+税)
医歯薬出版刊



私は最終章まで一気に頁をめくってきた。一息入れて、最終章 Appendix の『臨床で生きるQ & A』をじっくりと読んだ。最後のQ17は「歯科医師との連携がうまく取れません、どうすればよいですか？」で、その解答も明快に示されている。Q01~Q17、この章を読むことにも絶大な価値があると思えた。

一歯の一部分にキュレットの機能部位が歯面に沿って移動する、その流動的な臨場感こそが、本書の特徴であるといえる。そこには、歯科医院としての“チームコンセプト”が読み取れる。

序文の冒頭に「メインテナンスを目的に歯科医院に来院する患者が増えている……それに伴い歯科衛生士の役割や意義がより大きくなる」とあり、読み進めると、「適切な器具の選択とその手技は？」と書かれている。歯周組織を破壊する最大の原因はプラークの蓄積によるもので、歯科疾病の最大の理由がそこに生じる細菌によるといわれる。歯科衛生士の資質が問われるところであると思う。それは“適正な作業姿勢と指使い”によってバランスよく把持されているキュレットの

機能部が歯面を適正にフォローすることを意味していると思う。SRPのみならず、歯科治療の要となるのは「歯牙の形態を知ること」であり、本書序文ではそれを「Back to the basics, 『基本に立ち返る』」の言葉に集約している。本書の内容は、以下の通りである。

- I 編 SRP Complete Graph
 - Part 1 総覧! 連続写真でわかるSRPワーク
 - Part 2 そこが知りたい! 難易度別SRP実践テクニック
- II 編 SRP Basics
 - Part 1 SRPの基本テクニック
 - Part 2 SRP実践のための基本知識
- III 編 Keys for Professional Maintenance
 - Part 1 症例に学ぶ! 長期継続来院患者育成のための7つのステップ
 - Part 2 チーム医療とコミュニケーション
- Appendix 長期継続メインテナンスカアップのための臨床で生きるQ & A

まず、位置・形態に応じた各歯のSRPワークを徹底的に見える化したI編「SRP Complete Graph」と、II編「SRP Basics」のPart 1『5. ポジショニング』の項を熟視してから、直後に

ある「常に振り返りたい5大ポイントのまとめ」(99頁)をしっかりと読んでいただきたい。それから、上顎臼歯部のSRP施術テクニックが詳覧された66頁から79頁までの図に目をやりながら図説を読み進める。そのうえで全頁を“page by page”でじっくりと目を通すことをお勧めしたい。全頁に渡って躍動感があり、著者の医療姿勢が伝わってくるようだ。

医療者各自による歯牙の形態と正常な歯周組織の把握のもと、患者を中心に据えてそれぞれの専門性を発揮するというチームコンセプトに基づく治療およびメインテナンスを行っていくために、歯科医師にも歯科衛生士にも必須となる事項が満載されている。ぜひ本書を座右に置いて治療時の場面場面で役立てていただきたいと思う。

人生をかけて「歯の形を学び、歯の形を模す」ことを生業としてきている私にとっても本当に有意義な書籍であり、異なった角度から歯牙形態に目をやることができたことを、うれしく思っている。